

ルガルト王国の辺境のとある町で事件は起きた

凶悪なモンスターなどは滅多に出ず、穏やかに時間の流れる平和な土地だったが、最近、サキユバス共の仕業で町人たちの生気が吸われる事件が多発して被害が出ていた

サキユバスの吸精は翌日に疲労感が出る程度が普通なのだが、今回吸精された者たちは瞳を虚ろにして生気をぐっそりと奪われており屍みたいになっていた

そこで町で唯一のモンスター専門の討伐業者である俺に白羽の矢が立った

サキユバス達の住処へ行き原因を調査、問題の解決を依頼されたのだ。

モンスター専門で魔族は専門外なのだが
町の人たちは俺くらいにししか頼れる人が
いなかったんだらう

自信はないが前金も貰っているし頑張らう

しかし俺は間抜けにも町に設置されていた
対外敵用の魔法に引っかかってしまい
気絶させられた

意識を失う前に俺は死を覚悟した
そして、あることを思っていた

被害者は皆、夢見心地で幸せそうな表情を
していたのだ
そこまでサキユバスに吸精されるのが
心地よかったのだらうか？

「もう一回…もう一回だけ…」とっつわ言を
呟いていた被害者が脳裏から離れず
意識は泥の中へと沈んでいった……

う……ん？

ここは……？

まあ 大方察しは
つくけど……

アッ……

あなたもどうせ
楽園目当てでしょ？

何のことだ？

サキュバス
お前らのせいで町が
大変なことになって
いる

おはよう
人間くん

ここは
私の仕事部屋よ

ご用件は何かしら？

これ以上被害が酷く
ならないように止めに
きたんだ！

そうだったのね

けどごめんさないね
私達にも事情があるの

このサキユバスの町では成人して生気を採れる年齢になっても働かずダラダラ過ごす**引きこもり**がいるそうだと

加えて近年では**子供の出生率も上がっており**、町ぐるみで子育てするサキユバス達にとっては生気不足問題に見舞われている

引きこもりや**子供の生活も賄うため**、より多くの生気を集めなくてはいけないのだが、一晩に採れる量それほど多くない

それならば一回に採れる量を増やして対応した……という具合だそうだと

全く冗談じゃない
サキユバス達の問題を人間達に押し付けているだけじゃないか

だが、目の前にいるサキユバスの**族長・ミスティ**も真剣に頭を悩ませている様子だった
人間から生気を奪いすぎて死んでしまわれてはサキユバス側としても食い扶持がなくなってしまう

この状態が続けば、いずれはお互いに共倒れしてしまうことが明瞭だった



こちらです



俺は一体何してるんだか...

フニフニ



ここがミステイ様のご自宅です

中にいるはずですよ



状況としては
こちらにも不本意なのよ

まあ
そんなワケなの...



良いコト
思いついたわ!

...?



何とかあの子たちが

独り立ちできれば...

あつっ

あつ!

ミスティが俺に提案したのは

「この町にいる引きこもりを更生させる」
というものだった

現在引きこもっているサキュバス達の殆どが
搾精において問題を抱えている訳アリらしい

そいつらがちゃんと自立できるようになれば
一人頭から採る生气は多人数に分散され
町人の屍化は回避できる

まあお互いの落しどころとしては良いアイデアである
ただ問題なのが、その実験してみたアイデアの被験者
第一号がミスティの**実の娘・メルエ**である

一番驚いたのが「何をすればいいか」と聞いたら
母親の口から間もなく「セックス♥」と返って来たことだ

…さすがはサキュバスの族長だ

はい〜

カキ

カキ

今日は宅配頼んでな……





あの〜
族長から頼まれてきたんだけど
話通ってるのかな？

!? <

人

間

、

ノ

ズ

人間

!!




なんなんだ いきなり……
あれがメルエツつてやつなのか？

はい
その通りです

彼女がメルエ様……
ミステイ様が過保護に甘やかした
結果、心も身体もわがままに育った
天然の箱入り娘です

ス……

なんか極度に拗らせた奴みたいだな……
本当に大丈夫なのか……？
この作戦で……



まあ大丈夫でしょう
ミステイ様も仰つていました
精液の匂いを嗅がせれば
サキユバスの本能が目覚めるはず

そんなもんなのか……
まあこっちは
やるしかないんだけどな

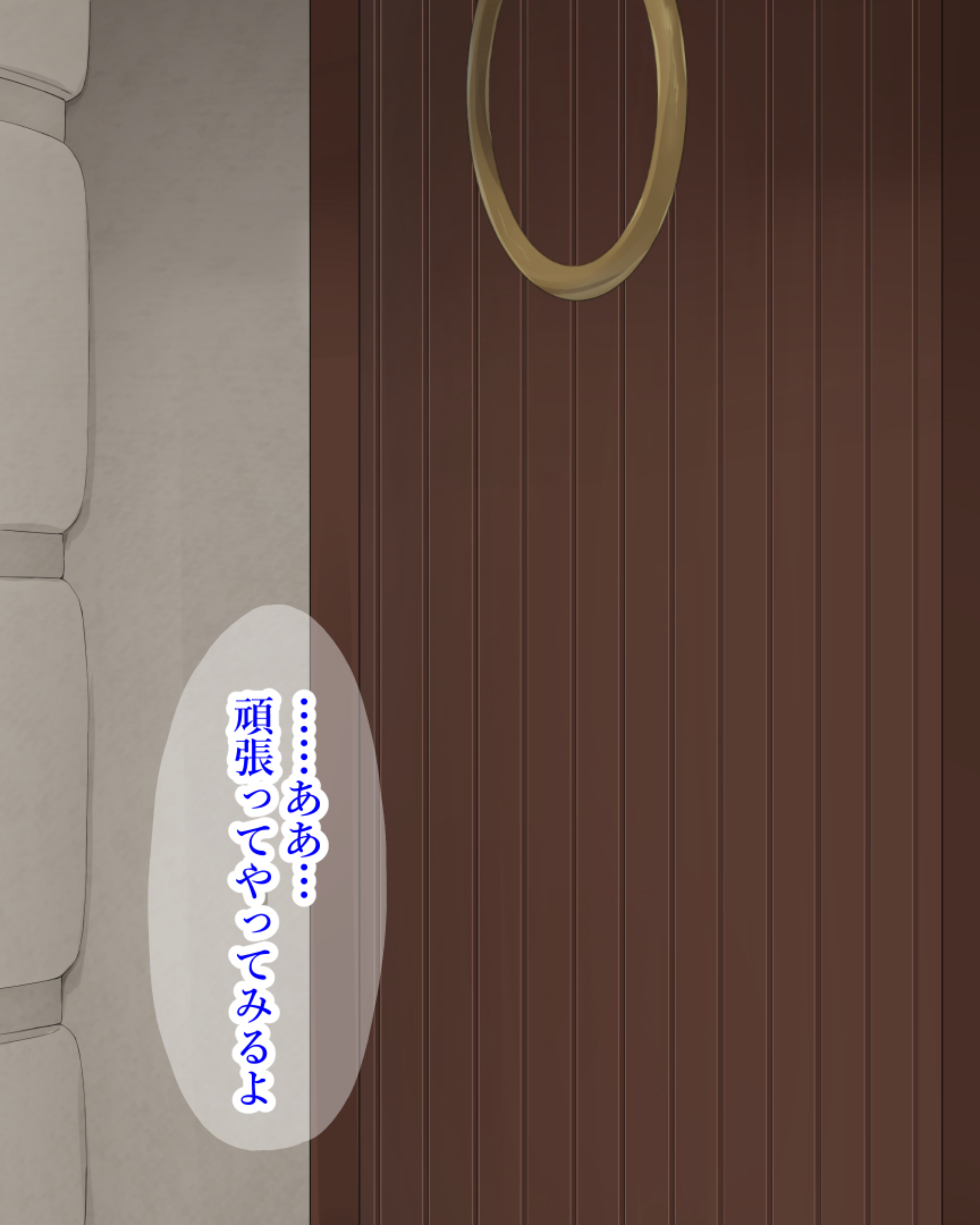
カ
カ
カ
カ
カ
カ

バ
バ
バ
バ
バ
バ



鍵が開きました
ここから先はお二人で
お願いします

フイッ。



……ああ……
頑張つてやってみるよ



男の人…だったよね…?
なんでここに男の人がいるの？

こんなだらしない姿見られた…!?
—ってそうじゃない!!

びくっ

ここか？

かた

ん

ザッ

ひやあうっ
本物の男の人……っ

な……何しに来たんですか……!?

あつ……えつと……
やっぱり聞いてないのか……

セツクス

しにきた

は……？

族長に頼まれて
君が一人前のサキュバスに
なれるよう更生しに来たんだ

だから……



ちよ…話を聞いて

バズン

来ないでええええつ!!
変態くっつ!!

い…
いやあああああつ!!



——というわけなんだ……

じ……っ
事情は分かりました……

でも
そういうことにまだ
心の準備ができてないっというか……

え？

とにかく嫌なんです!!
帰ってくださいっ……!!

困ったな…
これだと前に進まない…

あ

そういえば……

「精液の匂いを嗅がせれば
サキユバスの本能が目覚めるはずです」

本当かどうかは
わからないけど
やってみるしかないか……!



メルエ：
これを見てくれ!!

いやああつ!!
何してるんですか!?

オ
ロ

や
やっぱり変態さん
だったんですね!?

違う!
これは君が立派なサキュバスに
なるための訓練の一環だ!!

こうやって目の前で俺のちん〇を
見て慣れていくんだ!

ぐっ
ぐっ

ぐっ
ぐっ



うう〜……

なんかあつと言う間に
おちん○んおっきくなってるし……

それに匂いもすごい……っ
独特で変な香りだけど
嫌いじゃない……

は……早くしまってください……っ!!

しっ
っ

しっ
っ

これは訓練だぞ!
ちゃんと見てくれないと
意味がない!!

先っぽから透明な汁が
出てきてから
おちん○んからの匂いが
強くなってきたる…っ

ドキ

なんだか
お腹の下がきゅーって
熱い…っ

しゅっ

ドキ

しゅっ

さっきの反応からして
もつと抵抗するかと思ってたけど
意外と食いついてる感じか…？

ふんふん……ふんふん……

じつと見られてる……
なんか他人に見られながら
オナニーするのは緊張する
けど奇妙な充足感があるな

しっ

ドキ

ふん……

だめ……っ
ずっとこの匂い嗅いでたら
頭がぼーっとしてきちゃった……

しっ

ドキ

妙に身体が熱くって
空腹感みたいなのが続いてる……っ

随分と食いついてるようだな
少しはサキュバス業に興味を
持ってくれたか？

へ………？

あつ……いや別につ

ドキ

しっ

ドキ

しっ

それよりまだですか!?
ずっとこうされていてても
困ります…っ!!

うーん……

そう言われてもなあ…

ドキ

やっぱりネタがないと
どうしてもな……

あっそうだ
おっぱいとか
見せてくれない？

ひにやああっ!?

きゅっ急に何を
言ってるんですか!?

これも男に慣れるための
訓練だ!
サキュバスなら胸の二つや
二つくらい見せるもんだぞ!?

うう〜……

本当にそんなものなんですかあ……？

ああ！

ぽろん



ドキ

ドキ

ドキ

こ…これで
いいんですね……？

ううううううつ……！！
恥ずかしいいいつ
私何やってんだろ……つ

うおおおおおつ!!
玄関で見た時から思っていたが
かなりデカイ……っ!!

しかも大きさだけじゃなく
乳首の色も形もドストライクだ……っ!!

ドキドキドキ

あ……♥

おちん○んの匂いが
強くなった……っ

ドキ
ドキ
しゅっ
しゅっ

ドキ

私のおっぱい見て
興奮してくれてるって
ことだよね……っ?
なんか嬉しいかも……♥

さつきから私……
なんかヘンだ……

嫌なはずなのに……
身体が止まってくれない……っ

じん

じん

頭にずっと甘い
刺激が奔ってて
うまく考えが……

はぁ♡

はぁ♡

あぁっ……♡
美味しそうだなあ……
どんな味するんだろ……

しゃっ

熱い……っ♡
でも足りてない……っ♡

こころしたら……
どうですか……？

うおおっ…
いいぞ……っ
重そうなおっぱいが
形を変えて……っ
シコれる……っ!!

む
に
ゅ
っ
♡

ドキ
ドキ
ドキ

はあ♡

やった……♡
男の人ってやっぱり
はあ♡
こういうのが好きなんだ……

ドキ

なんか可愛い……♡

ドキ

しゅっ

しゅっ

あぁっ…
そろそろイケそうだ…っ
なんか汚してもいい布を—

……
そのまま出してくださいますっ♡

しゅっ
しゅっ

えっ…!!
本当にいいのか!?

はぁ♡
大丈夫ですっ♡
男の人が射精するところ
見たいんです…っ♡

…わかった!

ドキ
ドキ
ドキ

はぁ♡

ドキ



イクっ……っ!!

あぁっ♡

ジュルルッ♡

はあっ…はあ…っ

すごい量…♡
おちん○ん気持ち良さそうに
精液吐き出してた…♡

それに、この匂いやばい…っ♡
部屋中に濃厚な匂いが漂ってる♡

ドキ
ドキ
ドキ

はあ♡

はあ♡

はあ♡

ドキ
ドキ

ああ…♡

何だろこの感覚…♡
心臓が早く脈打って
五感全部がおちん○ん
に集中してる…っ♡

続きを…

もつと続けたい…っ

えいつ♡

お、おいつ!!

うわあ…カチカチ…♡
胸から熱さとビクビクが
伝わってきてます…♡

ざっ

いきなり
どうしたんだ!?

か

私…ちよつとだけサキュバスの搾精しごに
興味が出てきたんです…♡

それにこんな状態で……
まだ満足していなさそうですよ♡

さっきからずつと見てた
おっぱいでおちん○ん
気持ち良くなりたいですよね……♡

はあっ♡

はあっ♡

ほら♡
おちん○んも
出し足りないって
震えています♡

ビクッ

ビクッ

う……う

私にもつと味わせてください♡

ちゅちゅ

んちゅっ♡

くおおおう…!!

ぢゅるる、

はっ♡
たらっ…

ぷはっ♡
すごい濃い…っ♡

むたっ

クセの強い味が口の中で絡まって…っ♡
んくっ…♡
もつと味わいたいのにな
すぐになくなっちゃう…っ♡

さつきみたいに
おちん○ん扱いたら
また出してくれますよね?♡

私がやりますから
ただ気持ち良くなって
くれるだけで大丈夫ですよ♡

にゅち

にゅち

にゅち

あああつ

柔肉にちん○包まれて……つ
ちん○全部が刺激される……ツ!!

ぐうううううつ

おっぱいは柔らかかすぎるっ!!
すべすべの餅がちん○の神経を
擦って手の何倍も……ッ

何十倍も気持ち良い……ッ!!

にゅち

にゅち

にゅち

にゅち

しかもメルエの奴……っ
初めての癖に本能でどう刺激すれば
男が射精するかわかってる……!!

さつきよりも
匂いが強まって
クラクラしちゃう……っ♡

ぬるぬるのお汁もいつぱい出てきて
おちん○んがおっぱいとのおえっちの
準備完了させて……っ♡

ドキ

にゅち

はぁ♡

はぁ♡

ドキ

にゅち

ドキ

にゅち

孕ませようって
必死に熱々の精液を
熟成させてるんだらうなあ……っ♡

でもまだ射精^だしちやダメ♥

もつともおろつと
焦らして時間かけて
熟成させなきや……っ♥

うあああッ!!
はあッ……はああ……ッ!!
連続だから……ッ
そろそろ限界が……ッ

さつきよりも
ビクビクが多くなってる♥
今にも快感が溢れそうって感じ……♥

にゅちゅ

ダメだッ!!
気持ち良すぎて
我慢できないッ!!

動くぞッ!!

えっ!?!
あつ……ちよ……っ

おちん○ん勝手に
暴れちゃだめっ!!

おっぱい暖かくて……ッ
弱甘い刺激で焦らされる
なんて無理だッ!!

ズ
チ
ュ
ッ

ズ
チ
ュ
ッ

ズ
チ
ュ
ッ



イクう…ツ!!

びびり♡

♡♡

熱…っ♡

ああんっ♡ もうっ

これだと飲めないじゃ
ないですかあ…っ♡

ど

ユ

ル

ル

ル♡

もお…勿体ない…っ♡

もおつ
堪え性のない悪い
おちん○んですねっ！

おかげで精液食べ損ねた
じゃないですかっ！

どろろ
どろろ

びゅっ
びゅっ

すまん…
けどお前のおっぱい
気持ち良すぎるのが
いけないんだぞ…

そんなこと言っても
許してあげませんっ
でも——